



重原
散策ルート



1 重原の地蔵尊 【しげはらのじぞうそん】

「右ちりうーツ木道、左かりやステンシヨ道」と記してある、道標を兼ねた地蔵尊。かりやステンシヨとは、かつての刈谷停車場（現刈谷駅）のことで、刈谷駅の設置が明治21年（1888）であることから、それ以降に祀られたことがわかる。



地蔵尊

2 浄福寺 【じょうふくじ】

寺伝によると、もとは行基がこの地に薬王寺を建てたことに始まると伝えられる。一旦は焼失したが、宝永7年（1710）に上重原（現知立市）の万福寺から入寺し再興した。真宗大谷派に属している。



浄福寺

3 重原陣屋の跡・福島領の碑

【しげはらじんやのあと・ふくしまりょうのひ】
江戸後期の寛政の一揆によって、刈谷藩領の一部は陸奥福島藩との村替えを命じられ、重原村はじめ、小垣江村や野田村など18か村が飛地支配となった。以後福島藩は重原村に陣屋を置き、郡代による支配を行った。明治維新後は重原藩として立藩し、廃藩置県まで続いた。ここにある「従東福島領」の碑は、当初東海道筋の福島領の西端に置かれていたものである。



重原陣屋跡碑

4 重原の三井戸 【しげはらのみついで】

三井戸と呼ばれる、乞井戸・佐次兵衛井戸・慕井戸の3つの井戸がある。重原に来た弘法大師が、村人のために祈りながら杖で土地に穴をあけると清水がわき出たといわれる伝説が残っている。現在残っているのは佐次兵衛井戸だけで、他の2つの井戸は廃止され、浄福寺の山門前に祀られている。



重原の三井戸

5 宮城道雄供養塔 【みやぎみちおくようとう】

昭和31年（1956）6月、「春の海」を作曲した箏曲家宮城道雄は、関西で行われる演奏旅行のため夜行急行「銀河」に乗りしていたが、刈谷駅の東で走行中の列車から落下。不慮の死を遂げた。翌年5月、刈谷市、宮城会、日本盲人会の三者によって、三重宝塔の供養塔が転落場所近くに建てられた。



供養塔

刈谷市
全域マップ



刈谷の地図と周辺の史跡が表示されます。

※QRコードはデザインウェブの登録商標です

重原 しげはら

平安末期の荘園重原荘が由来。重原荘には、重原兵衛父子が本拠地としていたとされ、後に二階堂氏が地頭職を務めた。寛永年間（1624～44）に上・下に分かれた。上重原村は現知立市、下重原村は現刈谷市。いずれも刈谷藩領だったが、寛政4年（1792）に福島藩領の陣屋が下重原村に置かれた。

半城土 はじょうど

「半昌土」「繁昌土」とも記された。中世には稲垣雅楽助の屋敷があったとされる。慶長年間（1596～1615）、野田村から分かれて半城土村が成立した。水利の便が悪かったため、各所に溜池が造られた。

野田 のだ

江戸時代は、石高・反別ともに畑よりも田が多く、宿場のある池鯉鮒村（現在の知立市）の助郷村であった。寛政4年（1792）に福島藩領に代わり、明治2年（1869）に重原藩領となる。昭和30年（1955）に刈谷市へ編入された。

1 半城土古城跡 【はじょうどこじょうあと】

江戸時代の地誌『三河国二葉松』に「半城土村古城 稲垣雅楽助」と記される。半城土町西裏の辺りには「ジト」(地頭)、「オシロザカ」(御城坂)、「ゲンバ」(下馬)など、かつて中世の武士居館があったことをうかがわせる地名が残る。

2 齋宮 【さいぐう】

小さな祠に「オシャグチ(サマ)」などと古くからいわれる石の御神体が祀られ、良縁、安産など幸せの神(幸ノ神、塞ノ神)として信仰されている。中世には「西宮」、明治以降は「齋宮」と称されるようになったという。



齋宮

3 願行寺 【がんぎょうじ】

創建は慶長期(1596～1615)と伝えられる。山門はもと重原陣屋の門で、明治4年(1871)の廃藩により半城土村が買い受け、同7年にこの地に移築した。



願行寺

4 十応寺 【じゅうおうじ】

もとは禅宗で黄檗宗に属したが、現在は廃寺となっている。境内には秋葉堂・行者堂・地藏堂がある。明治には宝蔵寺(知立市)で得度した小山村出身の女性が、留守尼を勤めたと記録が残る。重原陣屋の玄関が当寺に移築されたといわれる。



十応寺

5 半城土天満神社 【はじょうどてんまんじんじや】

天満神社は天満天神すなわち菅原道真を祀ったお宮である。依網連の子孫といわれる三右衛門が北野天満宮に参詣し、神託によって菅原道真の木像を得て寛徳元年(1044)に創建されたといわれる。



半城土天満神社

6 教栄寺 【きょうえいじ】

弘長3年(1263)創建。もとは野田八幡宮の西に所在していたが、天文年間(1532～1555)の頃兵火にあって焼失してしまったため、のちに現在の地へ再興された。

寺宝の「絹本著色光明本尊画像」は刈谷市指定文化財。



教栄寺

7 昌福寺 【しょうふくじ】

応永15年(1408)の創建で、承応元年(1652)に浄土宗に転じ、壽永山昌福寺と改めた。寛政2年(1790)、寛政一揆の発端となる寺参会が小垣江の専称寺とともに開かれた。明治3年(1870)から翌年まで重原藩校「養正館」が置かれた。境内には加藤与五郎(フェライト発明者)や高野鎮雄(VHS開発者)の墓がある。



昌福寺

8 加藤与五郎生家跡

【かとうよごろうせいしかあと】

加藤与五郎は明治5年(1872)野田村に生まれた。磁性材料の発明など300余りの発明を行い、昭和32年文化功労章を受けるなど数々の偉業を成し遂げた。「フェライトの父」、「日本のエジソン」とも称されている。



加藤与五郎生家跡碑

9 野田八幡宮・野田史料館

【のだはちまんぐう・のだしりょうかん】

野田八幡宮は、正安2年(1300)再建時の棟札から、白鳳5年(676)創建と伝わる。武神である「八幡大神」を祀り、歴代の刈谷藩主・福島藩主から崇敬を集めた。

境内には野田史料館があり、野田村の古文書や野田八幡宮に伝わる資料を保管・展示している。



野田八幡宮

10 依佐美第三尋常小学校跡地

【よさみだいさんじんじょうしょうがっこうあとち】

明治6年(1873)半城土・野田・中村(現知立市西中町)が中村学校を設立し、善敬寺庫裏を教室として開かれた。その後野田学校、半城土尋常小学校、野田尋常小学校、依佐美第三尋常小学校、野田国民学校、野田小学校と改称され、昭和33年(1958)に半高小学校を統合して双葉小学校が開校するまで存続した。

